

TOPIC

学部開設から25年の歩み –臨床で見つけた実践と研究の種を育む–

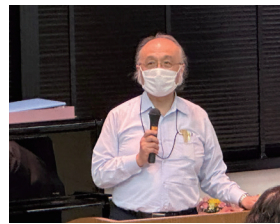
令和5年8月5日(土)、学術委員会主催にて、パネルディスカッション「学部開設から25年の歩み –臨床で見つけた実践と研究の種を育む–」が開催されました。会場は8号館N301講義室、47名の参加がありました。

5名のパネリストをお迎えして、初代学部長の中山洋子名誉教授からは、看護学部開設までの経緯、附属病院との協働について、高橋香子看護学研究所長からは、「看護学部vision2018」策定の背景と活動状況について、佐藤富美子特命教授からは、学部開設より本学部の発展を見守り支援してきた経緯についてご講演がありました。

また、看護学部1期生の湯田満希氏(虎の門病院師長)からは、大学時代のグループワークを通して培った力が現在の自分を支えている事、7期生の菅野秀氏(訪問看護ステーションドレミファ管理者)からは、大学時代での学び、看護師経験での迷い、看護学研究科で見つけた自身の目標と現在の活動についてご講演がありました。

講演の後のディスカッションでは、さまざまな視点からの意見が出されました。

本学部は、昨年度より学内看護学会の設立に向けた議論を行っていますが、設立が拓く可能性と課題について意見が交換されました。そして何よりも、大学が卒業生と連携できる機会や卒業生同士が交流できる場を設けることの大切さを確認した時間となりました。



NEWS

安村誠司理事兼副学長が 新型インフルエンザ等対策推進会議委員に任命されました

令和5年8月25日、政府は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対応に当たってきた「新型インフルエンザ等対策推進会議」のメンバーを9月1日付で刷新する旨を発表しました。

同日に行われた閣議後の会見において、新型コロナウイルス感染症対策を担当する後藤茂之経済再生担当相より当該会議メンバーの名前が発表されました。

本学の安村誠司理事兼副学長が、15名の

委員のひとりとしてあらたに任命(9月1日付)されました。

委員に任命されたことを受け、安村理事兼副学長は、「大変な重責だが、職責を全うしたい」と述べました。

南相馬市と保健科学部による 65 歳以上の体力測定会開催

令和5年8月22日から23日に、南相馬市と福島県立医科大学 介護予防研究チームは、昨年度に続いて、65歳以上の体力測定会を浮舟文化会館で共同で開催しました。

約100名の参加者は、一般の健康診断の検査項目には含まれない「血管老化度、歩行能力、認知機能、転倒のリスク度、嚥下能力」などの生活機能にかかわる項目を、先端技術を用いて測定し、その結果を専門家からその場で個別にフィードバックされました。

研究チームを主導したひとりである理学療法学科柴喜教教授は「自らの生活機能の変化や弱点を知り、健康づくりに役立ててほしい」と述べ、今後も継続して実施する予定です。



TOPIC

令和4年度医学部優秀教員表彰式及び受賞者講演を開催



令和5年8月23日(水)に、本学11号館第1臨床講義室にて「令和4年度医学部優秀教員表彰式及び受賞者講演」を実施しました。

本表彰は、本学教員の意欲向上と大学教育の

活性化を目的に毎年実施しているもので、令和4年度は、講義部門において医療人育成・支援センター 青木俊太郎助教(対象講義:コミュニケーション論)が、実習部門において神経解剖・発生学講座 橋本光広学内講師(対象実習:肉眼解剖実習)が受賞しました。

表彰式には竹之下誠一理事長兼学長をはじめ、鈴木弘行教育・研究担当理事、藤森敬也医学部長、小島祥敬教育評価委員長、福島哲仁教育評価副委員長が出席し、受賞者に表彰状と楯が授与されました。また、竹之下誠一理事長兼学長から受賞者へ「今後も、引き続き医学教育

へ弛まぬ熱意を注ぎ、福島の地に根ざす大学としてそれらの成果をあまねく地域に還元し、福島の実験の未来の創造と発展、県民の健康を支えるべく活躍して欲しい」と期待を述べました。

表彰式ののちには受賞者講演が行われ、青木助教は「伝わる講義のデザイン」と題して医学教育の方法とエビデンス、実践方法について解説を行いました。また、橋本学内講師は「肉眼解剖実習 ―そこから学んでほしいこと―」と題し、肉眼解剖実習において学生の理解をより深めるために工夫しているポイントについて発表が行われました。



TOPIC

「病理夏の学校 in 福島 ～病理を知らなきゃもったいない～」を開催



令和5年8月19日(土)、病理病態診断学講座の橋本優子教授が実行委員長を務める「病

理夏の学校 in 福島 ～病理を知らなきゃもったいない～」(日本病理学会東北・新潟支部主催)が本学福島駅前キャンパスにて開催されました。

医学部生や初期研修医が、キャリア形成を考える際の選択肢として参考となり、病理学について理解を深めてもらうことを目的に開催され、当日はオンラインを併用して東北6県と新潟県の医学部生や初期研修医約60名が参加しました。

セミナーでは、各講師から病理の専門医とし

て資格を取得する過程を解説し、病理診断が治療方針に直結する責任の重さや仕事の魅力について紹介がありました。

参加者は、講演内容に熱心に耳を傾けるだけでなく、病理診断・CPCにも挑戦し、病理学についての理解を深めました。

